

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成 30) 年 第 30 週 (7 月 23 日～7 月 29 日)

今週のコメント

～ヘルパンギーナ、RS ウイルス感染症～手洗いが重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ、RS ウイルス感染症ともに増加つく」

第 30 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は前週比 8.2%増の 2,544 例であった。定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、ヘルパンギーナ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RS ウイルス感染症、手足口病で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 4.2、2.4、1.8、1.5、1.3 であった。

感染性胃腸炎は前週比 3%増の 839 例で、南河内 8.5、泉州 5.9、北河内 4.6、三島 4.4 である。

ヘルパンギーナは 21%増の 473 例で、北河内 5.9、大阪市北部 5.1、豊能・南河内・中河内 2.0 であった。

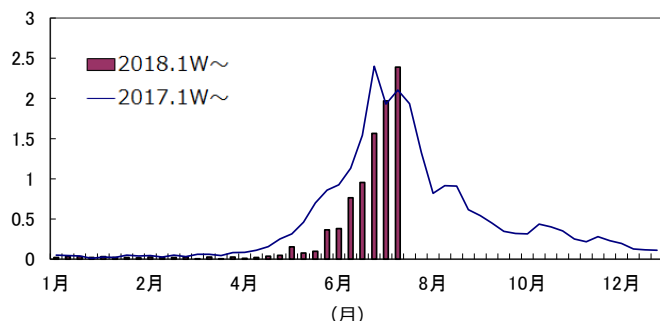
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 2%減の 361 例で、堺市 2.8、大阪市南部 2.4、中河内 2.3、北河内・泉州 2.1 である。

RS ウイルス感染症は 31%増の 302 例で、大阪市北部 2.3、堺市・中河内 2.2、南河内 2.1 であった。

手足口病は 21%増の 262 例で、北河内 2.3、泉州 2.2、大阪市西部 1.8 である。

ヘルパンギーナ

(定点あたりの報告数)



RS ウイルス感染症

(定点あたりの報告数)

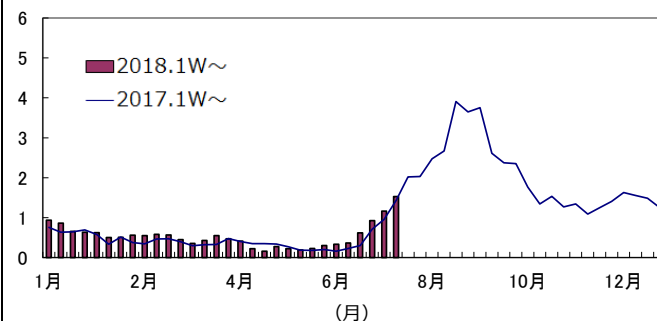


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 30 週 7 月 23 日-7 月 29 日)

第 30 週 の順位	第 29 週 の順位	感染症	2018 年 第 30 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017 年 第 30 週の 定点あたり 報告数	2018 年 第 30 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.2	3%増	4.4	1 歳_13%
2	2	ヘルパンギーナ	2.4	21%増	2.1	1 歳_29%
3	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.8	2%減	1.7	5 歳_15%
4	4	RS ウイルス感染症	1.5	31%増	1.4	1 歳_45%
5	5	手足口病	1.3	21%増	9.3	1 歳_28%

第 30 週のコメント

～梅毒～ 大阪府における 2017 年の梅毒感染者数は、800 例を超えました

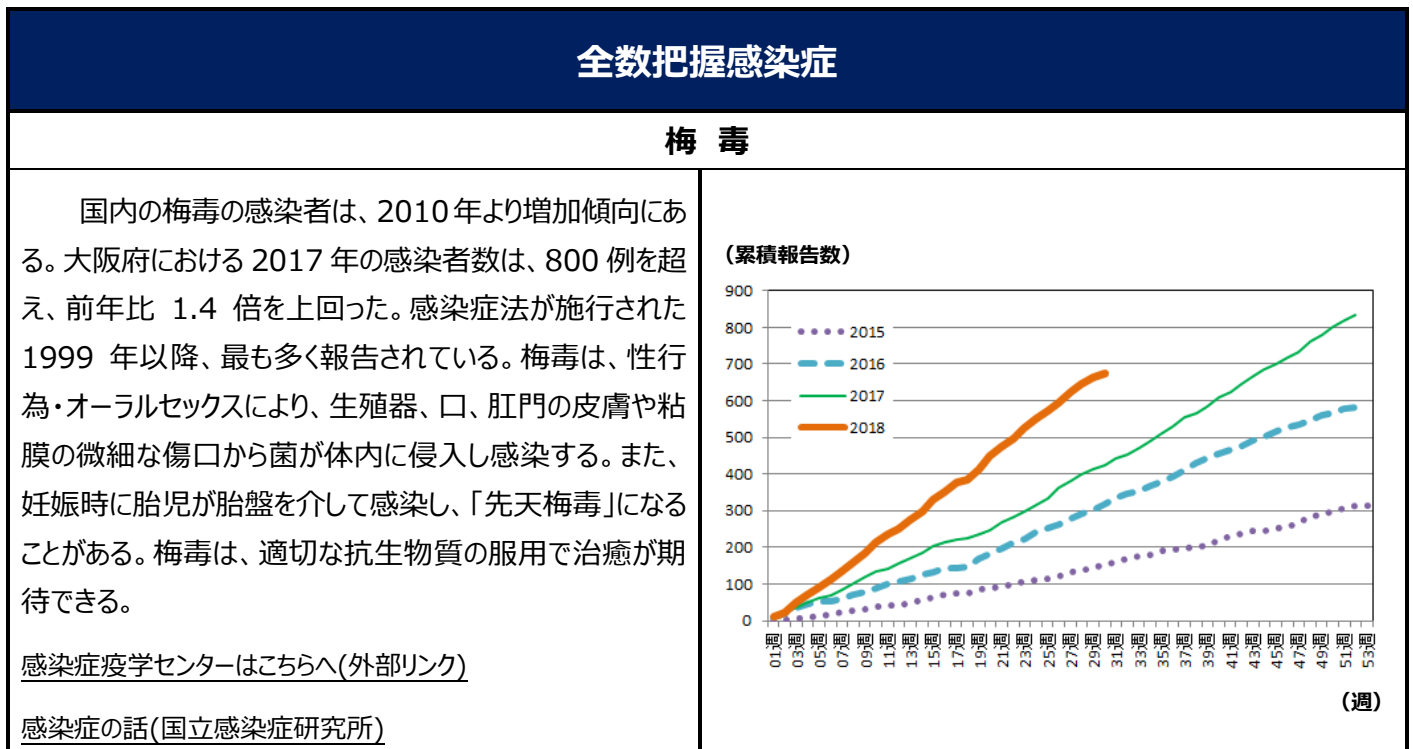


表 2. 大阪府全数報告数 (2018(平成 30)年 第 30 週 7 月 23 日 - 7 月 29 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

	疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	9	1		1		3	1		3	113
4 類感染症	A 型肝炎	1								1	26
	レジオネラ症 (肺炎型)	1							1		70
5 類感染症 (麻疹、風しんは除く)	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2	1							1	97
	後天性免疫不全症候群	2								2	78
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2								2	42
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	177
	水痘 (入院例)	1								1	15
	梅毒	10	1	1						7	674
	百日咳	15	3		3	7	1	1			291
結核 (2018 年 5 月分)	結核 新登録患者数 : 147 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 61 名) (府内累積報告数 723 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 285 名)										
麻疹、風しん	報告はありません										

(2018 年 7 月 31 日 集計分)